

大学サッカーチームにおける理想のリーダー像に関する研究

The study of an ideal leader in college soccer club

1K10C295 中田航平

主査 作野誠一 先生

副査 堀野博幸 先生

【目的】

大学体育会の主将は毎年変わり、それぞれに特有のリーダーシップスタイルがある。また、任期1年の短い中でできることは限られてはいるが、主将の発言や行動が部員に対する影響が大きいことは間違いない。

そこで、本研究では、「大学サッカーにおける、ついでにいきいたいと思えるリーダーシップ行動」について、大学サッカーリーグの頂点である関東大学サッカーリーグの上位校を対象にしたアンケート調査によって明らかにすることを目的とする。この調査を通じて、サッカーでの競技成績を高めるためのチーム作りのためのリーダーシップ行動を明確にすることを目的とする。そして、明らかになった知見に基づき、今後の大学サッカーが名実共に社会の中で存在感を増し、そして、確固たるブランドとして確立するためのリーダーシップ行動について提言したい。

【方法】

本研究の目的である、大学サッカーチームにおける理想のリーダー像を明確にする調査である。調査対象は、JR 東日本カップ 2013 第 87 回関東大学サッカーリーグ 1 部に所属し上位校である 6 大学を対象にアンケート調査を行った。また、各大学にプロフィールアンケートも行った。調査期間は 2013 年 11 月に行い、データ分析にあたっては、統計ソフト SPSS を使用した。

【結果】

関東大学サッカーリーグ 1 部校上位の大学かつ A チームの選手を対象から得た、ついでにいきいたいと思うリーダーの姿のまとまりを検討した。因子分析の結果 4 因子が抽出された。

6 大学の選手 170 名の回答を元に因子分析で得た因子と質問項目からグループ分析及び t 検定で分析した。結果、6 つの有効な有意確率を検出された。

因子 1:「強い意志」に関して、2 つの有意差がみられた。1 つは明治大学と流通経済大学である。2 つに早稲田大学と流通経済大学である。どちらも強い平均値での差が検出され、t 検定による結果でも 5%以下の有意確率が検出された。

因子 2:「インテリジェンス」に関して、2 つの結果が

得られた。1 つは、筑波大学と中央大学である。2 つに筑波大学と早稲田大学である。どちらも「インテリジェンス」において平均値での開きが見られ、t 検定による結果では有意確率 5%以下が検出された。

因子 3:「人間関係の調和」に関して、2 つの結果が検出された。1 つは、明治大学と早稲田大学である。2 つに専修大学と早稲田大学である。どちらも「人間関係の調和」において大きな平均値の差が検出され、t 検定による分析で 5%以下の有意確率が検出された。

次に大学プロフィールアンケートの回答からグループ比較を行い、t 検定で 3 つの有意差が見られた。

1 つは、「創部年数」と因子 1「強い意志」である。歴史の長い大学において強い意志の平均値が高く、t 検定による分析でも 5%以下の有意確率が検出された。

2 つは、「全国での成績」と因子 1「強い意志」である。全国での高い成績を収めた上位 3 校では「強い意志」に関して高い値を示し、平均値での差がみられ、t 検定による分析でも 5%以下の有意確率が検出された。

3 つは、「部員数」と「強い意志」との間で結果が得られた。平均値で大きな開きが見られ、t 検定による分析でも 5%以下の有意確率が検出された。

これら以外の質問からは有意確率を検出されなかった。

【考察】

分析により大学間比較でのみ結果が得られ、また、大学プロフィールアンケートによる分析でも大学による有意差が見られ、今回の研究では大学によりもとめられるリーダーの姿を結果として得られた。これらより高校までの成績やリーダー経験によるもとめるリーダーの姿はあまり関係しないことが考えられる。また、大学間比較により、歴史の長い大学、部員が少ない大学、全国での成績が高い大学では「強い意志」に関する考えや行動が重視されていることが考えられる。ただ、「インテリジェンス」、「人間関係の調和」に関して有意確率が検出されたが、明確な結果は難しく、今回質問項目としたものの以外によるものが必要であると考えられる。

今回の研究により多くの結果を出すことはできなかったが、大学による求められるリーダーに姿を結果として出せた。また、明確な有意確率が検出されたことは確実性の高い結果であり、この研究の持つ意味を表すことができたと考える。